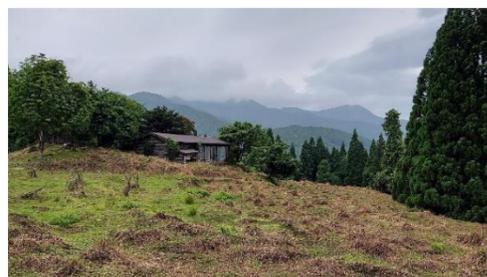


美方郡香美町
小代区新屋

豪雪地帯である香美町小代区の秘境に佇む熱田集落跡。今日の但馬牛の貴重なルーツの1頭となった名牛「あつ」号の出生地であり、“和牛の聖地”として語り継がれてきた。2010年までの長きにわたり、都市部からの自然体験教室を受け入れた農泊の先駆けとなる民家跡が残る。



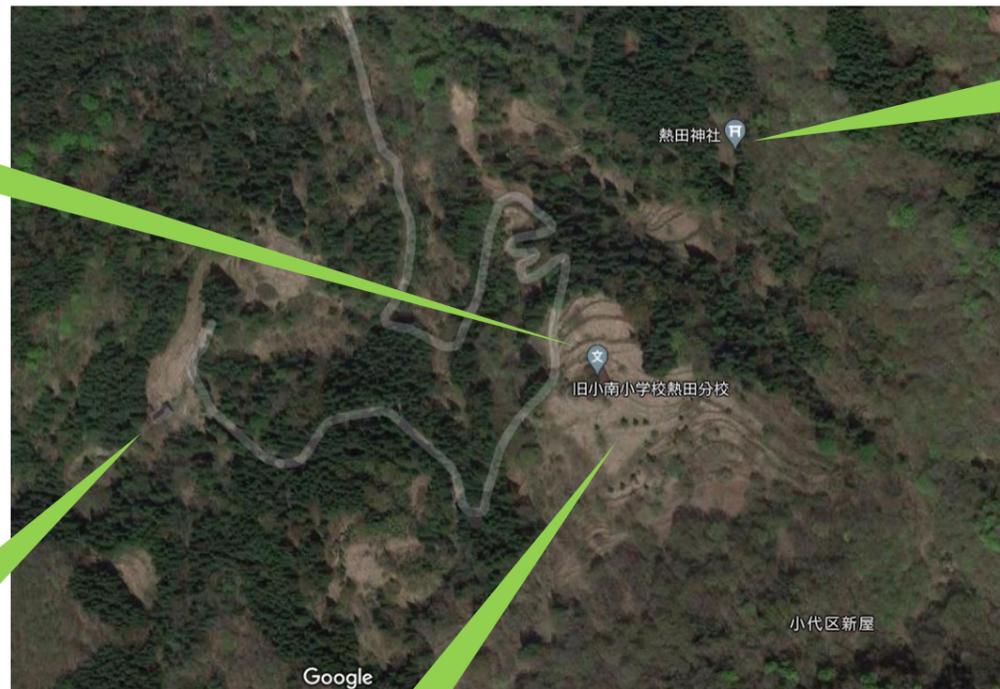
旧小南小学校熱田分校 観音堂

昭和16年、熱田分校開校。現在の校舎は、昭和34年に改築、移転されたもの。公衆電話が設置されるなど、集落の生活を支える施設でもあった。校舎から見上げたところに一体を見守る観音堂の姿。



山間に佇む民家(田淵家)

牛と共に過ごしていた民家は、2010年までの約30年間、自然体験教室の受入施設として利用されていた。



熱田神社

熱田集落は、約800年前、尾張国(現愛知県)の熱田神宮に仕えていた田野氏が家臣を連れて移住してきたことが起源とされている。熱田神宮から分祀された“熱田神社”が、この集落を見守っている。



関連施設

越冬住宅と牛舎跡(香美町小代区野間谷)

1969年(昭和43年)へき地の不便さに雪害が追い打ちとなり、全住民9世帯約50人が越冬住宅へ集団移転。現在居住するのは1世帯1人のみ。住宅横には牛舎を設け、共に移転した牛の世話をを行った。



標高約700mの山間では、傾斜地を利用した棚田(水田)や畑が広がり、山葵(わさび)が採れたり、柳行李(やなぎごおり)が作られるなど、牛が育まれる環境と景観が形成されてきた。



ストーリー

約800年前	尾張国から熱田神宮に仕えた田野氏が移住(熱田集落、熱田神社の起源)	起源
1394~1428年	金銀銅鉄が掘り出され栄える	繁栄
明治~昭和	小柄で小回りがきく但馬牛は、棚田を耕すために飼われ、家族同様に大切にされていた。明治以降、体格の大きな牛にしようとして外国種との交配が進められた。しかし、この集落は人里離れた秘境にあったことから外国種との交配を避け、地域内の血統にこだわって牛を育ててきた。この集落で生まれた雌牛「あつ」の子孫たちは良牛ぞろいであり、熱田にちなみ、その集団は、「あつた蔓(づる)」と名付けられた。「あつ」の家系から名種雄牛「田尻」が生まれた。現在の但馬牛は100%が「田尻」の子孫であり、この子孫たちが全国で和牛改良に使われてきたことにより、現在の黒毛和牛の99.9%に「田尻」の遺伝子が入っている。	歴史
1968年(昭和43年)	大雪の日、主婦5人が買い物からの帰宅途中に雪崩事故が発生	雪崩事故
1969年(昭和44年)	全住民が同町中心部に建設された越冬住宅へ集団移転(熱田分校閉校)	集団移転
2020年(令和2年)	3月31日をもって自治会活動休止。昭和レトロな熱田分校、農泊のさきがけ「自然体験教室を受け入れた熱田の古民家」、日本の黒毛和牛の改良に貢献した「あつた蔓」が生まれた“和牛の聖地”が佇んでいる。	和牛の聖地



田尻松蔵さんと但馬牛



分校前での記念撮影



但馬牛を引き連れ集団移転を行う様子



分校の周りの棚田等の風景



昭和38年豪雪ハコブタによる物資搬送



牛との生活の様子



越冬住宅(共同牛舎も建設された)

登録する景観の構成要素

旧小南小学校熱田分校、観音堂、熱田神社、牛と共に過ごしていた民家、棚田等、熱田集落の歴史・文化・生業に関わる景観とストーリー